

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	4675300182
法人名	有限会社 ケアサービス研究所
事業所名	グループホーム コスモス
訪問調査日	平成19年6月6日
評価確定日	平成19年7月6日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4675300182
法人名	有限会社 ケアサービス研究所
事業所名	グループホーム コスモス
所在地 (電話番号)	鹿児島県始良郡始良町大山字小坂元69番 (電 話) 0995-67-8280
評価機関名	特定非営利活動法人シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年6月6日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	1 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 5.1

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造平屋建て	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費	水光費他 1日500円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 866 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	名	男性	名	女性	9 名	
要介護1	1	名	要介護2	5	名	
要介護3	3	名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83.3 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青雲病院、久永医院、徳重医院、橋村歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の広がる、平和な農村地帯に建てられたホームである。天候の悪い日を除き、毎日戸外の散歩を実施し、地域の行事にも積極的に参加して地元の皆さんとの交流を活発に行っている。本人はもとより、一緒に暮らせないご家族の思いを理解して、ホームの職員が擬似家族となり、入居者の方々が地域の一員として、安心して最後まで人生の歩みが続けられるように取り組んでいる。また、機会ある毎に事例発表を行うなど、認知症高齢者ケアについての熱心な取り組みの成果は広く情報発信され、地域をはじめとする介護関係者全体の学びとなり励みとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、要改善点は特になし。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	定例の職員会議などの場を通じて自己評価に取り組み、外部評価の結果についてもその場で報告されている。新たに運営推進会議でも報告検討されるようになり、ホームのサービス内容や職員のあり方など、運営全般に亘る質の改善、向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの日常活動や入居者のご様子をはじめ、外部評価結果などについての報告や、地域との交流に関する話し合いが行われている。地域の区長、老人会長、自治会長、民生委員など、地域の方々や、地域包括支援センターからの参加もあり、家族会代表を交えて活発な意見交換がなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の訪問時やホーム側からの自宅訪問、家族会、投書箱などを通じてご意見を聞き、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の行事(ゴミの分別収集や草取り)や地域の催し(かかし祭りへの出品、出展 婦人会のボランティア)への参加、小学校の入学式や交流学习などに積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表者（兼ホーム長）及び管理者ともに、住み慣れた地域での生活の重要性を深く理解しており、その視点での理念に基づき利用者及び家族に接している。また日々の申送りやミーティングにてスタッフと意見を交わしその育成や向上に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念が玄関入口に、また居間には簡潔な理念「やさしくあたたかく安心と生甲斐をもって暮らせる家」と掲示している。理念は職員の意見を出してもらい作成しており、毎日のミーティングで理念の話しをし、月1回の職員会議で職員同士で意見を交換し共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事（ゴミの分別収集、草取りなど）や地域の催し（かかし祭りへの出品、出店、婦人会のボランティア＝おにぎり握りなど）への参加、また小学校の入学式、交流学习など積極的に取り組んでいる。ホームもひとつの家庭として活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定例の職員会議などを通じて自己評価がなされ、外部評価結果もその場において報告されている。新たに運営推進会議にて報告検討が行われるようになり、ホームのサービス内容や職員のあり方など、運営全般に亘る質的な改善、向上につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年4月から2ヶ月毎に開催し、先進的に取り組まれている。ホームの報告はその都度詳細に行われ、参加者からも意見が述べられ、ホームの運営についてその改善、向上に活かされている。議事録は次回に配布されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の窓口を度々訪ねるようにしている。ホームやご家族などの状況を伝え、現場からの高齢社会の現状についての声として理解していただくように努めている。また最近では民生委員の集りにも呼びかけがあるようになってきている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の訪問時、或はホーム側からの訪問や手紙などを通じて、入居者の状況を適宜報告している。職員の異動などは、毎月発行される広報誌コスモスに掲載して伝えている。金銭は基本的にお預かりせず立替方式をとっており、月末に精算をお願いしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時やホーム側からの自宅訪問、家族会、投書箱などを通じて、ご意見を聞き運営に反映する様にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の状況への対応或はスタッフの育成の立場で、法人内での異動が必要な場合がある。ダメージを少なくするために、担当が代わる場合には、管理者が一定期間関わるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会のもとで研修計画が作成され、新人から管理者まで職員研修に取り組まれている。外部研修にも派遣しており、内部での報告も行われている。定例の職員会議の後に、勉強会が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。始良伊佐地区の事業所において、各事業所毎に事例発表を行い、互いに学ぶ機会としている。他のホームからの実習も受け入れており、積極的に交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通所介護サービスを通じて親しくなったり、本人やご家族がホームを訪問して、ホームの楽しいところを見てもらうなどして馴染んでいただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方から、昔の食べ物やことわざについて学ばせていただくこともある。また、法事や墓参りにも同行するなど、一体感をもって共に生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報収集や管理日誌、個人別ケア記録などにより、入居者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のカンファレンスや定期の会議にて入居者の情報を持ち寄り、介護計画の見直しを行っている。自宅を訪問して、本人やご家族と時間を掛けて話し、本音を聞き出せるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しのほかに、個別ケア記録などから、また必要な場合は本人、ご家族とも相談の上、随時の見直しも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人は高齢者住宅や通所介護サービスを近隣にて運営しており、それぞれがホームと連携して、多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の意向を尊重してかかりつけ医を決めており、ホームからは医師へ電話、FAXにて情報を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の看取りについてはご家族、医師、ホームの間において同意書を作成し方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への接し方について、生活歴や現状にあわせて細心最大の配慮を行うように心掛けている。また職員は守秘義務の誓約書を提出しており、パソコンを含む関係書類の持ち出しは禁止されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ホームが入居者の生活の基盤となる家庭であるとの理解と認識をもっており、入居者のペースを尊重してケアサービスにあたっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は必要な場合にさりげなく介助しながら、一緒に和気藹々の雰囲気の中で食事を楽しんでいる。献立会議や材料の買い出しに入居者が積極的に参加しており、家庭的なものを維持している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する時間に入浴できるよう対応している。夏場にはシャワーを1日複数回利用の方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や畑仕事、裁縫をする方、或は地域の行事見学(夏祭り、運動会など)をする方、田植、芋掘体験への参加する方など、本人の気持ちを中心にそれぞれに支援している。その際、上手くいった場合などは大いに賞賛の言葉を述べ、張り合いを持っていただけるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日以外は散歩を日課としている。神社や公民館へ、お菓子持参で出かけたりしている。その他買い物や家庭菜園に取り組む方もおられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除いては原則的に施錠はしていない。徘徊が予想される場合は、職員が、携帯電話を持参して同行するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・防災委員会を設けており、そのもとで日頃から避難誘導について、入居者の身体的な状況を把握したより良い方法を全職員で話し合っている。また年3回、消防署による訓練を行っている。地域の自主防災対策組織に参加しており、近隣からの支援を受けられる体制である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量はチェック表に記録しており、個別の状況を把握し対応している。協力医療機関から、献立表の提供を受けて参考になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	田園風景の広がる、のどかな農村地域に建てられており、木造で行き届いた造りになっている。台所は入居者と一緒に働けるようになっており、居間、廊下、サンデッキなどの共用スペースも広く余裕がある。入居者の方々は、安心して家族的な雰囲気の中で過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具・備品が多く置かれており、家庭的な雰囲気である。		